

第5章 地域保健

第1節 母子保健

1 母子保健

母親のストレスや育児不安の軽減、子どもの健やかな成長を促すことを目的に心身障害及びその疑いのある乳幼児に対して専門医や保健師等による相談を実施している。

平成15年度から「母親のメンタルヘルス支援事業」の一環として、EPDS（エジンバラ産後うつ病質問票）を実施し、産科医療機関等と連携を図り、妊

産婦へ心のケアを実施している。

他に管内産科・精神科医療機関職員や、管内市町の母子保健事業に従事する職員を対象に講演会等を開催した。

また、精神発達面について指導助言する「幼児精神発達相談」も行っている。

(1) 相談・訪問指導実施状況

表1 対象別相談訪問指導状況

平成27年度(単位:人)

区分	総数		妊産婦		新生児		未熟児		乳児 (新生児・未熟児を除く)		幼児		その他 (学童以上)		
	実	延	実	延	実	延	実	延	実	延	実	延	実	延	
相談	来所	211	802	33	218	7	38	0	0	23	149	69	201	79	196
	電話	—	2647	—	1322	—	323	—	132	—	638	—	130	—	102
訪問指導		199	408	88	190	30	60	9	10	50	107	17	36	5	5

(2) 健やか妊娠育児支援強化事業

ア 目的

多胎妊婦や若年妊婦等は、妊娠中の健康管理のみならず、出産後の育児においても困難が伴いやすい。

そこで、これらの妊産婦に対し、医療機関、市町、保健福祉センターの連携により、育児不安の軽減と子どもの健やかな成長を促すことを目的とする。

イ 対象者

多胎、若年、未婚、身体的、精神的疾患を抱える妊産婦、その他妊娠や育児に身体的精神的困難が予測される妊産婦とその家族。

ウ 事業内容

- a ハイリスク妊娠等支援事業
- b 未熟児等母乳哺育支援事業
(助産師による訪問)
- c 赤ちゃん体操教室の開催

エ 実施状況（表 2-1～2-3）

表 2-1 ハイリスク妊産婦保健医療連携事業実施状況（妊娠週数別・紹介経路別）

平成 27 年度（単位：件）

	20 週未満	20～23 週	24～27 週	28～31 週	32～35 週	36 週～	産 後	計
医 療 機 関	3			3	1	4	91	102
市 町						1	2	3
そ の 他				1			1	2
計	3			4	1	5	94	107

表 2-2 未熟児等母乳哺育支援事業実施状況（リスク要因別） 平成 27 年度

	実人員	実施回数
未 熟 児	24	41
多 胎 児	3	5
ハ/リ/ク 産 婦	69	121
そ の 他	0	0
計	96	167

「赤ちゃん体操教室」実施状況

平成 23 年からダウン症児の出生が、例年より大幅に増加したため、出生が多かった加賀地域センターを会場に教室を開催した。その後、小松・能美地区においても出生が続いたため、平成 23 年

10 月から、南加賀保健福祉センター及び同センター加賀地域センターで開催している。赤ちゃん体操プログラムは、一人歩きができるまでを目標としている。

表 2-3 赤ちゃん体操教室実施状況

平成 27 年度

開催日	会 場	実 施 内 容	参 加 者
原則 第 3 火曜日 13：30～ 15：30 年 12 回	南加賀保健福祉センター	赤ちゃん体操の指導及び保護者の交流会 交流テーマ ・兄弟姉妹への関わり方 ・離乳食の進め方 ・医療機関での療育 ・ミュージックケア、エンジェルキッズ、なないろビーンズの活動の紹介等 ・保育園入園について ・眼科、耳鼻科、歯科、口腔外科、整形外科の受診	実人員 ・保護者 12 組 ・児 12 名 延人員 ・保護者 101 名 ・児（兄弟姉妹含む） 104 名 ・関係機関 1 名
原則 第 2 木曜日 13：30～ 15：30 年 12 回	南加賀保健福祉センター 加賀地域センター	赤ちゃん体操の指導及び保護者の交流会 交流テーマ ・兄弟姉妹への関わり方 ・離乳食の進め方 ・医療機関での療育 ・ミュージックケア、エンジェルキッズ、なないろビーンズの活動の紹介等 ・保育園入園について ・眼科、耳鼻科、歯科、口腔外科、整形外科の受診	実人員 ・保護者 6 組 ・児 6 名 延人員 ・保護者 25 名 ・児（兄弟姉妹含む） 22 名 ・関係機関 26 名

(3) 母親のメンタルヘルス支援事業

(3)-1 産婦一般健康健康診査における産後うつ病の早期発見への支援

表 3-1 産後 1 ヶ月健診での EPDS 実施状況 (参考: 市町実施分)

平成 27 年度

	受診者数	EPDS 実施数	EPDS 実施率 (%)	EPDS 9 点以上者数	EPDS 9 点以上者の割合 (%)
小 松 市	847	847	100.0	72	8.5
加 賀 市	368	368	100.0	31	8.4
能 美 市	389	389	100.0	23	5.9
川 北 町	59	59	100.0	6	10.2
計	1663	1663	100.0	132	7.9

(3)-2 母子保健福祉支援事例検討会

ア 目的

母親の育児不安や産後うつ病等の状況を早期に捉えて支援するとともに、妊産婦の心のケアが実施できる体制を整備するために、月 1 回程

度、管内市町と今後の支援方法等について検討会を開催する。

イ 開催状況 (表 3-2)

表 3-2 各市町における検討会開催状況

平成 27 年度

市町名	開催回数	参加者 (延人員)			
		保健所保健師	市町保健師等	市町福祉課・児童家庭課等	その他
小松市	12	37	85	28	16
加賀市	12	32	67	29	72
能美市	12	40	65	21	9
川北町	12	22	12	0	0

(3)-3 研修会及び連絡会

ア 目的

うつ病等精神疾患を抱えながら子育てしている保護者に対し、妊娠期から地域保健福祉関係者と精神科・産科医療機関等関係者が連携して支援するため、連携の必要性や課題等について関係者間で共通理解を図り、今後の連携を推進・強化することで、保護者の育児不安及び育児負担の軽減を図り、親と子どもの健やかな成長を促すことを目的とする。

イ 対象者

妊産婦の医療・保健等に関わる機会のある医療保健関係者 (医師、助産師、看護師および保健師等)。

ウ 実施内容 (表 3-3、3-4)

母親のメンタルヘルス支援研修会及び事例検討会、母親のメンタルヘルス支援連絡会

表 3-3 母親のメンタルヘルス支援研修会及び事例検討会実施状況

平成 27 年度

開催日時	会 場	実 施 内 容	参 加 者
H28. 1. 28 (木) 第 1 部 10:00～12:00 第 2 部 13:30～16:00	南加賀保健福祉センター	第 1 部 事例検討・意見交換 助言 とよたまこころの診療所 医師 鷲山 拓男 氏 第 2 部 健やか妊娠育児支援強化事業報告 事例検討・意見交換 レクチャー 「精神疾患もしくは精神的な関わりが必要となる母親への支援」 講師 とよたまこころの診療所 医師 鷲山 拓男 氏	精神科医療機関 産科医療機関 石川県助産師会 市町母子保健・児童福祉担当課 児童相談所 保健福祉センター 第 1 部 19 名 第 2 部 27 名 計 46 名

表 3-4 母親のメンタルヘルス支援連絡会実施状況

平成 27 年度

開催日時	会 場	実 施 内 容	参加者
H28. 3. 17 (木) 19:00～21:00	南加賀保健福祉センター	健やか妊娠育児支援強化事業報告及び事例報告 地域連携の課題について意見交換 講師 栗津神経サナトリウム 理事長 秋山 典子 氏	精神科医療機関 産科医療機関 市町 児童相談所 保健福祉センター 29 名

(4) 幼児精神発達相談事業

表 4-1 幼児精神発達相談実施状況

平成 27 年度

目 的	幼児期において重要な精神発達状況を把握し、適切な指導助言を行い、健全な発育発達を促すと共に保護者が精神的にも安心して子育てができるように支援する。
回 数	年 20 回
内 容	<ul style="list-style-type: none"> ・ 保健師の問診 ・ 心理判定員による判定（新版K式発達検査） ・ 小児科医師による診察 ・ 保健指導 ・ 総合評価（支援方針の決定）

表 4-2 幼児精神発達相談来所者状況

平成 27 年度 (単位: 人)

実 人 員	32	
延 人 員	33	
1人平均来所回数	1	
性別	男	26 (78.8)
	女	7 (21.2)
結果	異常なし	12 (36.4)
	異常あり	21 (63.6)
来所時年齢	1～2歳未満	0 (0.0)
	2～3歳未満	0 (0.0)
	3～4歳未満	11 (33.3)
	4～5歳未満	14 (42.4)
	5～6歳未満	6 (18.2)
	6～7歳未満	2 (6.1)

()内 は構成割合%

表 4-3 来所動機 平成 27 年度 (単位: 人)

各種健康診査結果 市町保健師より	29 (87.9)
医療機関より	2 (6.1)
その他	2 (6.1)
計	33 (100.0)

()内 は構成割合%

表 4-4 異常の内訳 平成 27 年度 (単位: 人)

言語発達遅滞	2 (9.5)
精神(運動)発達遅滞	3 (14.3)
自閉症スペクトラム	8 (38.1)
知的障害	0 (0.0)
その他	8 (38.1)
計	21 (100.0)

()内 は構成割合%

(5) 親支援のためのグループケアモデル事業

ア 目的

育児不安や育児困難を抱えている親に対して、親同士の交流の場を提供することにより、自分達の抱えている問題を自ら発見し、その問題に対して積極的に取り組めるようにすると共に虐待などの未然防止を図ることを目的とする。

イ 対象者

子育てに不安や困難を感じ、何らかの支援を必要とし、親自身が参加を希望する者。

ウ 実施内容 (表4)

表 4 グループケア実施状況 平成 27 年度

開催回数	参加者	
	親	子ども
12回 (月1回)	実6人 延18人	実6人 延18人

(6) 子どもの心のケアネットワーク事業

ア 目的

ひきこもりや小児うつ、摂食障害、発達障害など様々な子どもの心の問題について、支援者が関わりの中で抱えている疑問や問題を提示・検討し合いながら、管内における医療・保健・教育・福祉関係者が連携したネットワークの重要性を認識し、切れ目のない支援を行うことを目的とする。

イ 対象者

子どもに関する業務に従事する者

ウ 実施内容 (表6)

子どもの心のケアに関する学習会、報告会

表6 子どもの心のケアネットワーク学習会及び報告会実施状況

平成27年度

日時	内 容	参 集 者
H27. 6. 26	第1回「こころの発達概説」	保育所、幼稚園、つどいの広場、相談機関、管内市町児童福祉、障害福祉、母子保健担当課 教育センター、小・中学校、特別支援学校、医療機関、発達障害支援センター、児童相談所、保健福祉センター 延205人
H27. 8. 28	第2回「愛着、関係性のもつ意味」について	
H27. 9. 18	第3回「子どもと悪」について	
H27. 10. 30	第4回「ファンタジー、遊びの意味」について	
H27. 11. 27	第5回「いじめについて」	
H28. 1. 29	第6回「子どもはいかに乗り越えるか～大人の役割～」	
H28. 3. 4	子どもの心のネットワーク学習会受講後の実施報告会	第1回～第6回 受講者 13人

2 小児慢性特定疾病相談等状況

ア 目的

小児慢性特定疾病児及びその家族の適切な在宅療養生活の確保のため医療機関や市町、教育委員会など関係機関と連携を密にするため相談等を実施する。

イ 相談状況（表7）

小児慢性特定疾病医療費助成申請時に、把握した相談希望者へ病気や療養生活について相談に応じた。また電話や訪問等で随時対応した。

区 分	実人員	延人員
悪 性 新 生 物	3	3
慢 性 腎 疾 患	0	0
慢 性 呼 吸 器 疾 患	0	0
慢 性 心 疾 患	5	23
内 分 泌 疾 患	6	9
膠 原 病	0	0
糖 尿 病	1	1
先 天 性 代 謝 異 常	1	1
血 液 疾 患	0	0
免 疫 疾 患	0	0
神 経 ・ 筋 疾 患	2	2
慢 性 消 化 器 疾 患	0	0
膠 原 病	0	0
皮 膚 病	0	0
計	18	39

表7 小児慢性特定疾病別相談指導人員 平成27年度